

2024年度  
幼児版正規セッション  
アンケート結果報告書

# 目次

01. 概要

02. 受講者満足度

03. 事前・事後アンケート結果

04. アンケート結果の考察（19項目）

05. 参加者の声（保護者）

06. 参加者の声（支援者・専門職）

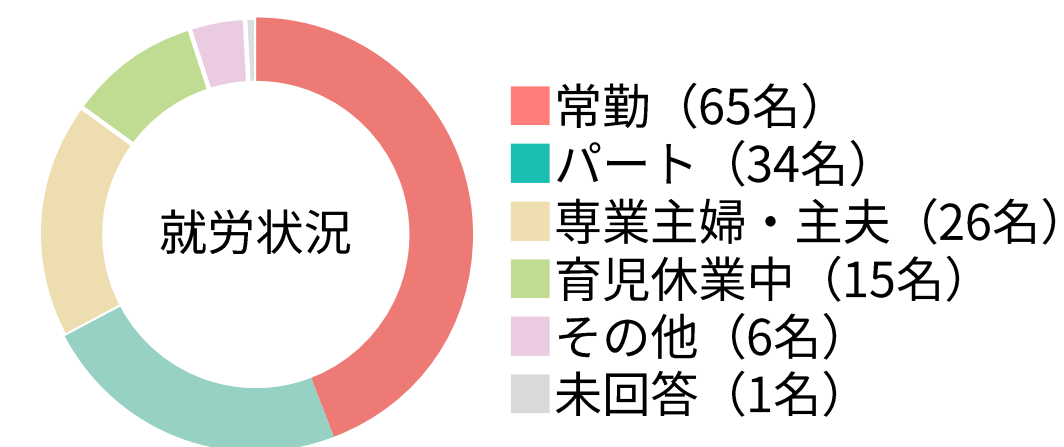
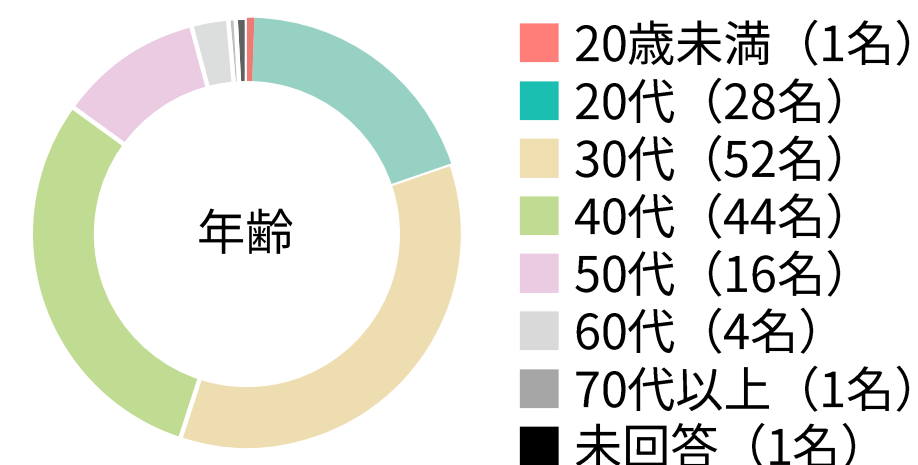
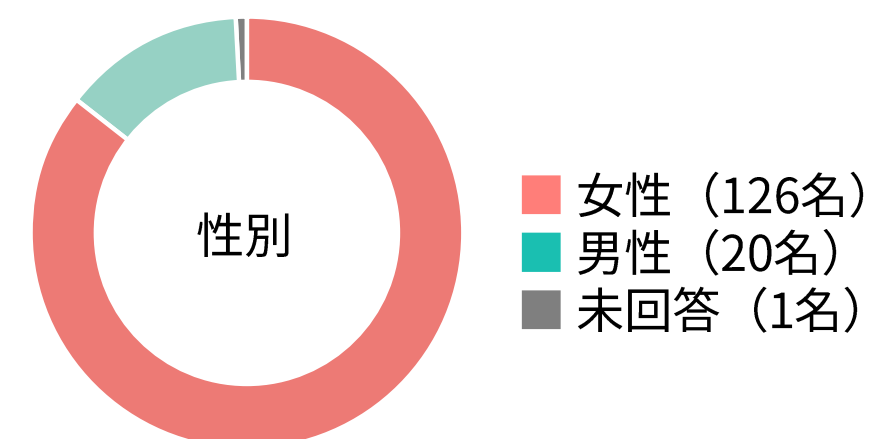
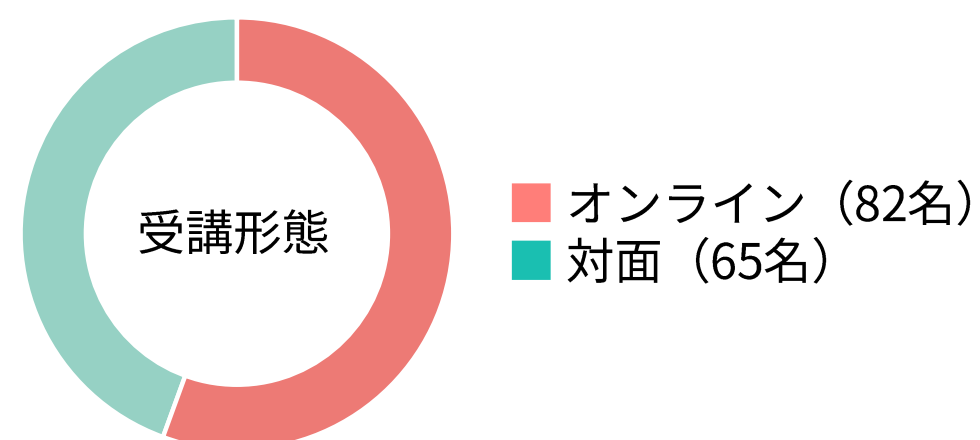
07. まとめ

# 01 / 概要

2024年度（2024年4月1日～2025年3月31日）に実施した「コモンセンスペアレンティング幼児版正規セッション」において、受講者を対象に事前アンケートおよび事後アンケートを実施しました。

事前アンケートは講座受講前、事後アンケートは講座修了後に実施し、保護者の子どもへの関わり方や子育てに関する実践状況の変化を把握しました。

事前アンケートは147名、事後アンケートは132名から回答を得ています。



## 02 / 受講者満足度

講座修了後に実施した満足度アンケートでは、プログラム内容、講師・ファシリテーター、教材、講師による説明や質問への回答など、すべての項目で非常に高い評価が得られました。

アンケートは以下の8段階で評価を行いました。

- 非常に当てはまる
- 当てはまる
- やや当てはまる
- 普通
- あまり当てはまらない
- 当てはまらない
- 全く当てはまらない
- わからない

価項目	非常に 当てはまる	当て はまる	やや 当てはまる	肯定的評価 (3区分合計)
プログラムに参加してよかったと思う	108	18	2	100%
指導・教材が良かったと思う	95	29	4	100%
質問への回答が良かったと思う	95	28	4	99.2%
説明や事例が分かりやすかった	96	28	3	99.2%
家族との関係を前向きに変えていこうと思う	99	25	2	98.4%
友人や知人に勧めたいと思う	74	34	17	97.7%

\*未回答4名を除く128名を分母として算出。

\*本報告書では、「非常に当てはまる」「当てはまる」「やや当てはまる」を肯定的評価として集計しています。

「プログラムに参加してよかったと思う」は100%、「家族との関係を前向きに変えていこうと思う」は98.4%、「友人や知人に勧めたいと思う」は97.7%となり、受講者から極めて高い評価を得ていることが確認されました。

## 03 / 事前・事後アンケート結果

アンケートでは、「ほめる」「教える」「ルールを伝える」「問題行動を予防する」「親子で楽しい時間を過ごす」など、日常の子育てに関する19項目について、5段階評価で回答を求めました。

分析の結果、19項目すべてにおいて「とても当てはまる」「やや当てはまる」の割合が受講後に増加しており、講座で学んだ内容が実際の子育て場面で活用されていることが確認されました。特に、

「子どもに『行ってほしいこと』を伝える」「問題行動を防ぐための計画を立てる」「明確で簡単な方法で伝える」「怒っていても落ち着いて話す」といった、CSPの中心となるスキルに大きな改善が見られました。

また、子どもの良い行動に気づいてほめることや、新しいスキルを教えること、親子で楽しい時間を過ごすことなど、親子関係の土台となる関わりについても向上が見られました。これらの結果から、本講座を通じて保護者の子どもへの関わり方に前向きな変化が見られ、親子関係をより良くするための実践が家庭の中で広がっていることがうかがえました。

### 評価項目

楽しい時間を共有できている
見守ることができる
親から遊びに誘う
良い行動をほめる
新しいスキルを教える
年齢に合ったお手伝い
新しいスキルを称賛する
ルールを一貫して守る
落ち着いて話す
明確で簡単に伝える
「行ってほしい行動」を伝える
ルール遵守を確認する
選択肢を示して問題を防ぐ
活動変更前に予告する
問題行動予防の計画を立てる
理由を説明する
日課を楽しく工夫する
作業を小さなステップに分ける
難しい状況への準備をする

## 04 / アンケート結果の考察 (19項目)

楽しい時間を  
共有できている

89.7%

↓ +5.7  
ポイント

95.4%

親子で楽しい時間を意識的に過ごす機会が増えており、肯定的な親子関係の基盤づくりにつながっていることがうかがえます。

見守ることができる

81.6%

↓ +9.9  
ポイント

91.5%

子どもの行動をすぐに指示や介入でコントロールするのではなく、自主性を尊重しながら見守る姿勢が高まっています。

親から遊びに誘う

82.2%

↓ +3.9  
ポイント

86.1%

保護者から積極的に子どもとの関わりをつくらうとする姿勢が見られました。

## 04 / アンケート結果の考察 (19項目)

良い行動をほめる

93.8%

↓ +4.7  
ポイント

98.5%

もともと高い数値でしたが、受講後はさらに向上し、子どもの良い行動に注目する意識が強まったことが分かります。

新しいスキルを教える

71.2%

↓ +18.0  
ポイント

89.2%

子どもができないことを注意するだけでなく、できるようになるために教えるという関わりが増加しました。

年齢に合った  
お手伝いをさせる

67.8%

↓ +12.1  
ポイント

79.9%

子どもの発達段階に応じて役割を与え、成功体験を積ませる関わりが広がりました。

## 04 / アンケート結果の考察（19項目）

### 新しいスキルを称賛する

94.5%

↓ +3.9  
ポイント

98.4%

努力や成長を認める関わりがさらに定着していることがうかがえます。

### ルールを一貫して守る

41.1%

↓ +17.8  
ポイント

58.9%

家庭内でのルール運用に一貫性を持たせようとする意識が高まりました。

### 落ち着いて話す

35.6%

↓ +21.7 **注目!**  
ポイント

57.3%

感情的な対応ではなく、冷静に子どもと向き合う姿勢が大きく向上しました。

## 04 / アンケート結果の考察 (19項目)

明確で簡単に伝える

57.5%



+23.1  
ポイント

注目!

80.6%

子どもが理解しやすい伝え方を意識する保護者が増えました。

「行ってほしい行動」  
を伝える

42.1%



+35.5  
ポイント

注目!

77.6%

最も大きな改善が見られました。否定的な表現ではなく、望ましい行動を具体的に伝える実践が広がっています。

ルール遵守を確認する

38.6%



+25.8  
ポイント

注目!

64.4%

ルールを決めるだけでなく、継続して確認する関わりが増えました。

## 04 / アンケート結果の考察 (19項目)

選択肢を示して  
問題を防ぐ

44.1%

↓ +20.3  
ポイント

64.4%

子ども自身が選択できる環境を整えることで、問題行動を予防する意識が高まりました。

活動変更前に予告する

70.3%

↓ +1.0  
ポイント

71.3%

もともと実践している家庭が多く、大きな変化は見られませんでした。高い水準を維持しています。

問題行動予防の  
計画を立てる

41.4%

↓ +23.8  
ポイント

注目!

65.2%

問題が起きてから対応するのではなく、事前に予防する関わりが広がっています。

## 04 / アンケート結果の考察（19項目）

理由を説明する

82.1%

↓ +7.0  
ポイント

89.1%

保護者が子どもに理由や意味を伝えることを意識するようになっていきました。

日課を楽しく工夫する

44.1%

↓ +20.2  
ポイント

64.3%

日常生活の中で子どもが前向きに取り組める工夫を行う家庭が増えました。

作業を小さなステップに分ける

51.8%

↓ +14.9  
ポイント

66.7%

子どもが成功しやすいよう課題を細分化する関わりが増えています。

難しい状況への準備をする

38.7%

↓ +18.6  
ポイント

57.3%

困難な場面に備えて事前に教えたり練習したりする予防的な関わりが増えました。

## 05 / 参加者の声（保護者）



### 子どもとの 関わり方が変わった



受講前は叱ることが多かったが、子どもの良い行動に目を向けてほめることが増えた。



「ダメ」と言う代わりに、してほしい行動を伝えることを意識するようになった。



子どもに理由を伝えることで、自分で考えて行動する姿が見られるようになった。



子どもの発達段階に合った期待を持つことの大切さに気づいた。



### 子どもの 変化を実感した



痙攣やパニックが減り、落ち着いて過ごせる時間が増えた。



兄弟げんかが減った。



話を聞いてくれることが増えた。



良い行動が定着し、家庭でのやり取りがスムーズになった。

## 05 / 参加者の声（保護者）



### 保護者自身の変化



自分の感情をコントロールしながら対応できるようになった。



子どもが取り乱した時も慌てずに対応できるようになった。



子育てに対する不安が軽減され、自信を持てるようになった。



「どうしたらよいか分からない」状態から、「試してみよう」と前向きに考えられるようになった。



### 印象的だった声



受講前はすぐ怒鳴ってしまうことに悩んでいましたが、落ち着いて対応することが増え、息子も感情的になる回数が減りました。



ほめることを意識するようになり、子どもとの関係が驚くほど良くなりました。



子どもと笑い合う時間が増え、子育てを楽しめるようになりました。

## 06 / 参加者の声（支援者・専門職）



### 子ども理解と 支援の視点が変わった



子どもの問題行動だけでなく、その背景や発達段階を  
考えるようになった。



子どもに求める期待値を見直すきっかけになった。



「見せて話す」「理由を伝える」ことの重要性を  
再認識した。



予防的な関わりが問題行動の減少につながることを  
実感した。



### 現場での 実践につながった



職場で日常的に活用するようになった。



子どもへの声かけに一貫性が生まれた。



職員同士で良い行動に注目し、共有する機会が増え  
た。



支援の引き出しが増え、自信を持って対応できるよう  
になった。

## 06 / 参加者の声（支援者・専門職）



### 保護者支援にも 活用できると感じた



自身の支援だけでなく、保護者への助言にも活かせる内容だった。



親支援の視点を持ちながら子どもを支える重要性を再確認した。



福祉施設や学童など、さまざまな現場で活用できると感じた。



### 印象的だった声



考える引き出しが増え、子どもと接するときに意識することが増えました。



予防的教育法を用いることで、子どもの問題行動が減り、伝え方や練習の重要性を実感しました。



今対応している保護者への助言や支援にも活かしていきたいと思います。

## 07 / まとめ

事前・事後アンケートの比較では、19項目すべてにおいて「当てはまる」と回答した割合が増加しており、講座で学んだ内容が日々の子育ての中で実践されている様子が見られました。

特に、

- 子どもに行ってほしい行動を具体的に伝えること
- 分かりやすく簡潔に伝えること
- ルールを一貫して伝え、守れるように関わること
- 問題行動を未然に防ぐための工夫をすること
- 感情的にならず落ち着いて子どもと向き合うこと



といった、CSPで大切にしている子どもへの関わり方において大きな変化が見られました。

また、子どもの良い行動に気づいてほめることや、親子で楽しい時間を過ごすことなど、親子関係の土台となる関わりについても向上が見られました。

これらの結果から、本講座で学んだ内容が家庭で実践され、保護者と子どものより良い関係づくりにつながっていることが確認されました。

# THANK YOU

本資料をご覧いただき、ありがとうございました。

一般社団法人  
日本ボーイズタウン  
プログラム振興機構

〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町7-2-2F

TEL: 03-6206-2104

<https://www.ibpf-japan.org>

<https://www.csp-child.info>